

## 下田・川内 仙見川中俣沢

棚橋

【日時】 2007年8月25日(土)～26日(日)

【メンバー】棚橋(L)、矢野、佐貫

仙見川遡行は天候不順やメンバーが集まらないなどで、今シーズンだけで4回目の計画である。考えている遡行スタイルからすると、今週が今シーズンのラストチャンスである。

8月25日 晴れ

仮眠地にて準備を整え、門原より林道の終点へ移動。ここより先は極めて蛭密度の高い地域と知られている。このところ毎年、川内に訪れていることもあり、特別な蛭対策もせずスタート。雨の心配をする必要がない、そして何よりこの暑さが気持ち良い。赤倉川出合までの山道は、所々藪に道が覆われている箇所もあるが、概ね歩き易い。そこを時折蛭チェックを行いながら進む。赤倉川出合で休憩がてら最後の蛭チェックを行ったところ、やはりかなり生息しているらしく複数が進撃中であつたが、幸い被害はゼロであつた。それにしても本場の奴等は元気がいい。

まずはゴーロを進む。地形図から想像していたような険悪さはない。静川を分け、腰まで浸かってゴルジュを通過すると、その先もゴーロ。暫く進むと「いよいよ」といった溪相に変わり、漸く静淵が現れた。その長さは、50mはあろう。水量もさほど多くはなさそうなので、思い思いに泳ぐこととする。泳ぎきるとナメをはさんでまたもや淵。この15mも泳ぐ。その先もゴルジュの溪相は続く。更に10mほど泳ぐとゴルジュの出口にタナイの滝2mCSが見える。漕は腰よりも深く、兩岸ともつるつる。ゴルジュは狭いが、そこまで足が開きそうもない。そこを矢野君は突っ張りで取り付き、越えてしまった。しかもザックを背負ったままで。ロープを垂らしてくれたので私も取り付いたが、ハングっているのが容易には登れず、



静淵は泳いで通過

ザックをおろして矢野君同様ツッパリで越えた。続く佐貫は荷揚げの後、二人掛りでザック同様引っ張り揚げた。続く淵15mも泳ぎ、出口の小滝を越えるとゴーロとなる。こ

の辺りまでがS字屈曲部であろう。

ゴーロが終わると沢が右に曲がり、何やら有りそう。行ってみるとCS4mの滝。これがヨコムネの滝であろう。幾分傾斜の緩いように見える右側も落とす水量はかなり多いので、左岸をヘツリ気味に巻くことにする。容易ではなさそうなのでロープを着け、矢野君がトライ。下で見ただけでは分からなかったが岩質が脆く、ハーケンを苦勞して打ちながら滝上へと消えていった。私がアッセンダーを着けて続いたが見た目以上に悪く、ロープは張ってはあるものの延びている方向からして決して落ちる訳にはいかず、緊張の登高であった。後続には矢野君に更に1段上がって貰いビレイ。このシビアなヘツリが、今回の山行で最も悪かったと思う。矢野君に感謝。続く中俣大滝も登れないが、手前のルンゼより容易に巻ける。

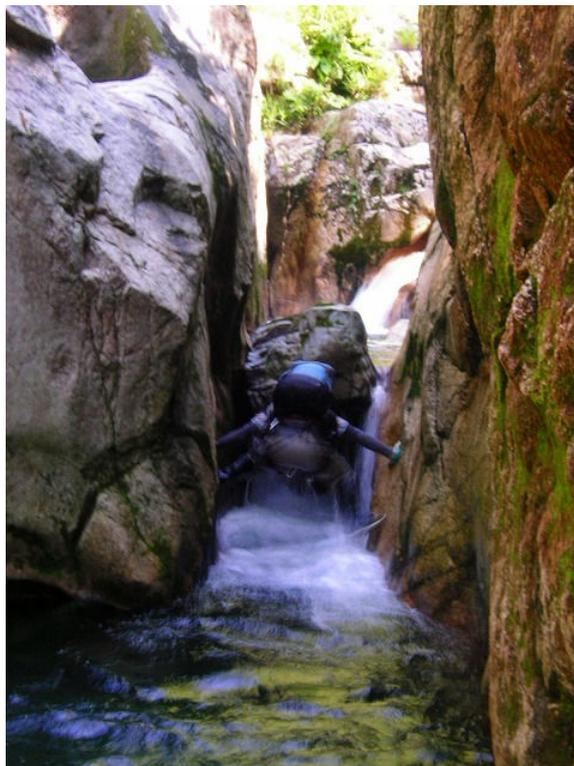
この先より溪相は穏やかになり、また時間も十分にあるので、のんびり釣り上がることにする。思い思いの釣果をあげ、幕場予定地と考えていたc514の手前に良さげな場所を見つけたので、そこで幕とした。

8月26日 晴れ

本日の行動は、車の回収も含め少々長いので5:40に出発する。ゴーロが終わると10m滝が現れ、手前の右岸ルンゼより巻く。続くチムニー滝8mも手前のルンゼ状より小さく巻く。権ノ神岳からの沢が右より3:1で合わさると、10mハング滝を最下段に持つ多段の滝が現れる。ここは先ほどの沢を少し登り、まとめて巻く。4m滝、樋状3条8m滝を登り、10m滝を左岸より巻くと4m滝の懸かるタテヒビ沢と出会う。

5mナメ滝を越えると右、左より枝沢が合わさり、ナメ滝3×5mを登ると連瀑帯となる。

更に5m滝を越えた所が、二俣である。進む右俣には登れなさそうな滝が連続して懸かっ



タナイの滝を突っ張りで突破



タテヒビ沢手前の連瀑帯

ているので左俣を少し登り、中間尾根越しにその連瀑帯を巻く。続く3段7m滝は右から巻くと上方に白糸の滝が見える。4m滝を連続して登ると、白糸の滝の前衛の連瀑帯が現れる。それらを登るといよいよ白糸の滝である。基部10mは右側のバンドより斜上、途中からは覆い被さる岩を屈みながら登る。途中に残置ピンがあった。続く10mは右端を、灌木に助けられながら登る。3段目の15mは高度感があり、まともに登るならロープが欲しいところ。まだ時刻は10:20なので、直登することにした。矢野君がハーケン3本を打ち込み、安定した登りでロープを延ばす。4段目10mも直登するならロープが必要であるが、ここは時間を短縮するために右側の灌木を絡めて、巻き気味に登る。



白糸の滝

黒い壁状の8m滝を登ると10mクラスの滝が3連続で立ち塞がる。左岸よりまとめて巻き、二俣付近に下りる。左俣を進み、5m滝を連続して越える。水が涸れてからも傾斜の強いスラブ滝にて高度を上げる。楽には登らせてくれない滝が続くが、5m滝を登ると漸く源頭の趣となる。自分の好きなスタイルである「山頂に直接突き上げるルート」に拘り、できる限り沢形を拾いながら登ると、藪漕ぎ5分で呆気なく粟ヶ岳山頂間近に出る。もっと遅くなることを想定し、計画書提出時にもそのように伝えてあったので、山頂に着いた旨、会のメーリングリストにメッセージを送る。山頂では八匹沢スラブなどを眺めながら川内の景観を満喫した後、加茂の水源地へと下山した。

仙見川は、蛭、ゴルジュ帯、泳ぎ、釣り、連瀑帯、大滝、粟ヶ岳と変化に富み、想定以上の楽しさであった。天候、メンバー、その他の状態にも恵まれ、会心の山行であった。

【グレード】 4級

【行程】 8/25 林道終点(7:35)～赤倉川出合(9:20/40)～静川(芝倉沢)出合(10:06)～c514手前(16:30)

8/26 幕場(5:20)～c514(5:40)～二俣(9:00)～奥の二俣(12:30)～

粟ヶ岳(14:35/15:00)～砥沢のヒュッテ(15:35/45)～ダム(17:00)

【地図】 粟ヶ岳、越後白山

